飛地問題 白根、編入を申し入れ
＝新潟も調査に乗り出す＝

ことしの四月新潟市から鰈が通、中鰈の末第、上鰈の末第二の十八世帯に、昭和三十三年度の家屋の固定資産税の徴税令書がきて、地籍が新潟市にあることが判り、白根町民が実は新潟市民という事態がおきた。

この問題について白根町では五月十六日以降、二回にわたつて新潟市へ問題となつている地域白根町に編入することを請願。地元関係者の意向を聴取する等解決に努めているが……。

白根町としてはいわゆる"いただき"にあがる立場なので、新潟市を刺激することのないように、関係住民に陳情運動をするようすめることなどもしていないが、しかし関係住民の白根町編入の署名運動が行われそのほとんどが賛成の意向であるので、議会の了承を求めて、一体となつて両地籍を編入する考えで、新潟側の空気、地元民の意向をよく聴えたうえ、正式に話をすすめる方針である。

新潟市は議会に提出する以上、調査の必要があるので曽野木支所によつて、住民の意向、実情を調査し、なるべく白根側の要求にそうべく配慮するといつている。

また、関係住民の意向はいままで白根町民として生活してきた、いまさら新潟市民といわれてもピンとこない。白根町民として別に不便もないし、一日も早くアイマイな生活を打ち切りたいというのがほとんどの意向らしく、白根町、新潟市、地元民の三者の話合いで問題を解決できるのではなかろうか。

註＝これらの部落が信濃川に沿つていることからみて明治年間に信濃川の改[illegible]が行われ[illegible]は川筋が絶[illegible]よろめい[illegible]ていたが、いまの堤防が築かれて堤防の内側に入り旧曽野木村から川を隔てた遠い存在となり、ここへ堤防改修により土地を失つた人たちが住みつき、後からこの土地へ来た人も旧大鷲、中鷲、鷲巻[illegible]町[illegible]の納税義務を行使してきた。

ことしは八月～九月に実施
結核の健康診断

今年度の町の結核の健康診断は八月の末から九月末日までにかけて行う予定で、昨秋の七八・六%を上回る成績をえたら、まだ"数の患者が発見されるものとおもわれるので、町民一人残らず、診断をうけるよう要望している。

結核健康診断
八割が受診
最下位は庄瀬の五割

町では昨年秋、結核予防法による町民の健康診断を実施したが、三十一年度の三十六%を大きく上回る七十八・六%という好成績であつた。これは、結核に対する関心が深まつたのと、婦人会の協力によるところが大きいものとおもわれる。地区別の診断成績は次のとおり。

白根	八七・〇%
新飯田	八四・四%
臼井	八三・八%
大郷	七二・三%
鷲巻	八七・七%
庄瀬	四九・二%
茨曽根	七四・七%
小林	七八・四%
根岸	八五・〇%

で、(1)鷲巻、(2)白根、(3)新飯田の順で最下位は、庄瀬であつた。なお、この結果八三名の結核患者と、三八名の要注意者が発見された。

昭和三十四年一月一日からメートル法だけが使用されます。メートル法に早くなれましょう。長さはメートル[illegible]リツトル[illegible]ムに[illegible]建物について[illegible]除外例があります。

"健生病院"近く開院
～組合員は二千六百名～

地区生活協同組合による白根健生病院（院長中野政氏）は白根地区旭町の富士劇前に、第一期工事の新築分を総工費一千二百万円で今春より工事を進めていたが、七月二十五日ころ開院することとなつた。当分、病院には九ベッドしかないが、近く広野診療所（大郷）の病棟を移転するので十月になれば三十二ベッドとなるはず。医師は常勤三名、非常勤二名で、診療は外科と内科で今後二期、三期工事で七十ベッドに拡張し、充実してゆく予定。組合は、白根をはじめ、味方、潟東、月潟を地域として、組合員数は約二千六百名（内白根町、二千五百八十名）である。

【完成近い健生病院】

農地転用には許可を……
―農業委員会―

最近農地を農地以外の目的に転用した面積が、本県では毎年三百町歩近くになつており本町の場合も転用面積は昨年だけで一町七反余とまだ増加の傾向にあります。農地を工場、住宅その他耕作以外の土地に転用するため、自分の農地をつぶす場合でも所定の手続きをして、県知事の許可をえなければならないことになつており、無許可でつぶしたときは違反とみなされ、処罰されることになつています。やむをえない場合でもできるだけ生産力の低い農地を選定されるように願います。許可を受けるには、その農地の大字、字、地番、地目、面積を確め、その附近にある道路、水路、宅地地帯等を記入した略図と、建物ならば簡単な間取図（平面図）を用意し、自分で利用する場合は単独で、他に譲渡する場合は譲受人の両者で申し出られれば係員が内容を聴き、許可申請書の代書をします。工事を急ぐあまり、無許可で埋めてたり、形を崩すことのないよう注意してください。なお、農地の売買、転換、贈与で所有権が移転の許可を受けた関係者はなるべく早く登記をすますようにしてください。登記の登録税は許可年月日にかかわらず登記を受けられる月で評価されることになります。

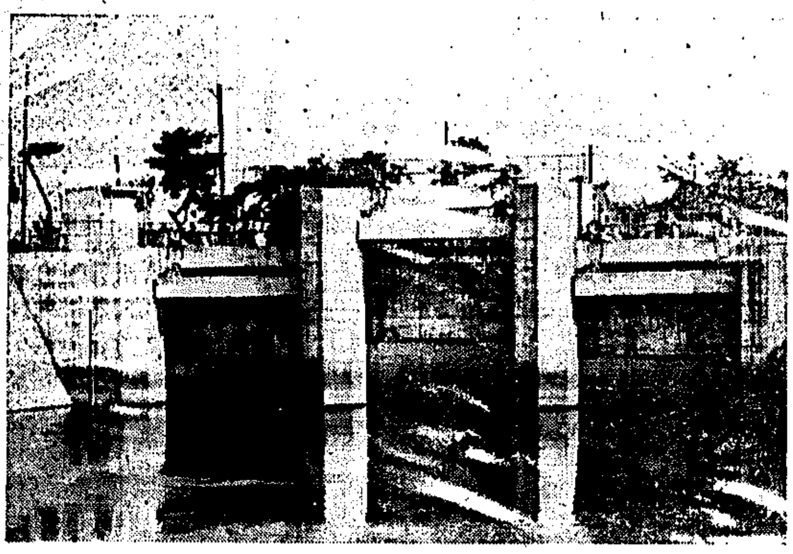
白根見てある記【3】
鷺ノ木の新水門

町の最北端、町の中央を縦貫する排水幹線、大通川の流末に昭和三十二年、新しい水門が設けられた。いわゆる鷲ノ木の桜林の向うに近代的なコンクリート作りの水門が見える。従来のレンガ作りのものに比べたらデラックスの水門だ。

もともとこの地域は白根町六千町歩の自然排水吐き口として、古くは江戸時代に木造水門が、明治時代には東、中、西の三か所にレンガ作り水門が設けられていた。いまも中水門は上郷排水機の下手に面影を残している。この三水門から大通川の流れを中ノ口川に排出していたが、東水門は閉じ、西水門は機械排水専門となり、中水門は毎秒六立方メートルの能力しかなく、しかも近年中ノ口川の水位が高くなり、この水門では自然排水がほとんど不可能となつた。そして短時間でできるだけ大量の流水を落す必要に迫られ大通川改修と水門の改造を昭和二十七年ころより国に運動し、信濃川河状整理を行う機会に大通川水門先の伸長工事、堤防強化、川底の掘下、通水断面の拡張を国に要望し、昭和二十九年総工費二千八百七十三万円で県営で着工した。そして三年後の昭和三十二年に完成した。この水門は、二千六百町歩が大通川に排出する水を信濃川に放出するもので、通水巾員五メートル三門、開閉は五馬力三台のモーター！にまき上げる。排水能力は毎秒十五立方メートル、一時間に五万四千トンの水が放出されるわけ。

しかし、これも信濃川の水位が大通川の水位より低いときだけの話で、信濃川の水位が高くなればかえつて大通川に逆流してくるので水門を閉じなければならなくなる。だから豪雨が長びき信濃川が減水しない場合、頼れるのはわずかに上郷排水機だけでこれが百三十五馬力一台しかも老朽しているのでとても間に合わない。そこで、やむをえず二段排水を休止して大通川に落す水を極力セーブすることにしているわけで、上郷排水機を改修し増馬力しなければ豪雨時では町の北部は洪水の危機がたり、大通川の破堤、浸水の懸念もある。

そこで、大通川改修を国に陳情し、県でも計画立案中というが、お役所仕事でなかなか渉らないらしい。ただこの水門が完成したことは大通川改修を実施しなければ効果はないので、その基礎をつくつたといえる。とにかく、このレース、スタートはしたが、ゴールにはまだほど遠いようだ。（QP）



―威容を誇るデラックス水門―

アンテナ ANTENA
保健婦をもつと家庭へ……

支所が駐在室になつて、駐在していた保健婦が役場に引き上げたが、医療施設に恵まれない地域では出当の打撃。病気やケガの応急手当、処置を気兼ねなしに頼めたが、いまでは助産婦にかけつけてもらうような状態。無医村に近い地方ではまかり間違えば生命に関することだけに、ことは重大。戸籍関係が一日おくれたり、出納、土木関係の引き上げられた不便にはがまんできる。しかし病気は待つたなしだ。一、二時間の差がとんでもないことにもなりかねない。保健婦がいたころは、注射をしてもらつたり、適切な処置をとつてくれたが、置き薬だけが頼りという悲しさだ。保健衛生の問題にしても支所の窓口で気軽に相談できた。保健婦も親切に教えてくれたものだがいまではそれもできず、不便きわまりない。この保健婦引き上げについてN地区では婦人、青年の団体が町に抗議を申し込んでおり他の地区へも波及する形勢。集団的組織的な衛生関係の仕事も大切に相違ないが、保健婦が家庭に進出して、健康、保健、衛生問題を指導し、相談することも大事なはず。とくに医療機関に恵まれない地方では、なおさらのことだ。こんなことから中央集権的と非難されやしないか。白根地区以外の人につまらぬコンプレックスを抱かせはしないだろうか。（Y）

青連 新年度事業きまる
駅伝競走（九月）など

白根町連合青年団では六月十五日代議員、各部の部員を招集、本年度の事業計画を審議し、次のように決定した。

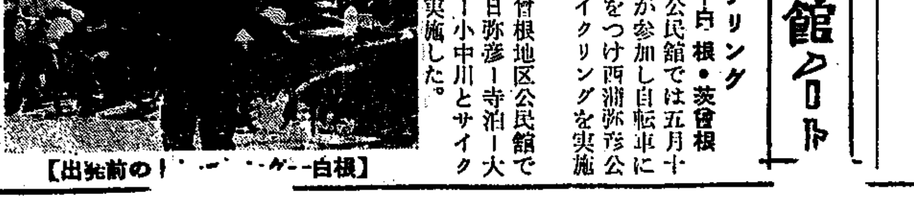
▲七月一日三十二年度増収研究受賞式、二十三日～二十六日野外教育、登山技術指導者講習会（笹ヶ峰）
▲八月一日生活改善講習会第一回（白根）七日青年体育大会（根岸）十八日バレー、野球大会（庄瀬）二十日生活改善講習会第二回（茨曽根）三十日～九月一日青年指導者講習会（庄瀬）
▲九月七日白根町一周、駅伝競走
▲十月二十五日増収研究競技会
▲十一月中旬青年問題研究集会第一回（庄瀬）下旬増収研究競技会受賞式
▲十二月十四日青年卓球大会（白根）中旬青年問題研究集会第二回（臼井）

第四回 町婦人大会

白根町婦人会では、毎年行つて来た婦人大会を去る六月八日、白根小学校で会員約千五百人が集つて開催、日報社松井敬氏の講演、レクリエーションに各地区婦人会員の演芸が行われ、満場爆笑のうちに午後三時閉会した。

公民館ノート
サイクリング ―白根・茨曽根―

白根地区公民館では五月十八日多数が参加し自転車にゴム風船をつけ西蒲弥彦公園までサイクリングを実施した。
また、茨曽根地区公民館でも六月一日弥彦－寺泊－大河津－燕－小中川とサイクリングを実施した。



【出発前の[illegible]―白根】

凧合戦写真コンクール

白根地区公民館主催による今年度「白根大凧合戦写真コンクール」には多数が参加。

成績
▲A部 (1)渡辺綱雄（新発田）(2)安沢宏（鷲巻）(3)捧武（燕）
▲B部 ①花岡敏一（小林）②水間村淡（白根）③平松聡一（白根）

お願い

館報白根の原稿を[illegible]ます。"町民の声""まちの生活記録"（匿名も可）また"見てある記"のテー[illegible]"アンテナ"へ掲[illegible]い苦情、不満がありましたら中央公民館、館報係へお知らせください。

編集後記

◆暑い！水銀柱がグングン上る。干バツで深刻な地方もあるが治水万全の白根ではカラッユによる被害も少いらしい。まずはめでたい。◆市制問題＝ことが大きいだけに、みんなでよく考え、研究して町長のいうように悔いを残さぬような道を開こう◆黒埼村が正式ではないが学童の入学を認めた。寺小屋は消えたが子供たちの心は暗い。早くスッキリした教育体勢を作つて不幸な子らを救つてほしい◆海に、山に絶好のシーズン。夜空も美しい。白鳥や七夕星、南天の射手座サソリ等、涼を招く一大ページェントだ。（和郎）